

日本画壇の風雲児として活躍した横山操は、戦後の日本画においてひとときわ個性的な存在でした。14歳で画家を志し上京。最初洋画を学びますが、後に日本画に転向。20歳で川端龍子が主宰する日本画の団体・青龍社の第12回青龍展に初入選します。その喜びも束の間、召集され、捕虜生活から帰国後は、失われた10年を取り戻すかのように再び制作に打ち込み、大胆で豪放な大作を次々に発表しました。青龍社では、受賞を重ね社人となり将来を嘱望されましたが、後に脱退。晩年、病に倒れますが、その後も左手で描き続け、繊細で色彩豊かな表現や水墨など意欲に満ちた作品を制作。丹念で精緻に描かれた小品にも、優れた作品が多くあります。

本展では、戦前に川端画学校で勉強し制作した、青龍展初入選の《渡船場》や、戦後の青龍展での出品作に加え、これまでの「横山操展」では公開されることの少なかった小品や素描により、豪放かつ繊細な画風で日本画界に新風を巻き起こした横山操の生誕100年を記念し、その画業と知られざる一面をご紹介します。



1



2



3



4



5

1《紅白梅図》1970年 個人蔵 2《グランドキャニオン》1961年 新潟市美術館蔵 ※半期のみの展示 3《赤富士》1966年頃 雪染舎美術館蔵 4《渡船場》1940年 燕市教育委員会蔵 5《塔》1957年 東京国立近代美術館蔵 ※半期のみの展示



### 横山操

よこやまみさお (1920~1973年)  
新潟県(現・燕市)出身。従来の日本画の常識を打ち破るような意欲作を制作。富士の連作、水墨画、武蔵野の風景で新境地を拓き、後進を指導。晩年、半身不随になりながらも制作を続け53年の生涯を駆け抜けた。

《自画像(素描)》1940年 燕市教育委員会蔵

### 講演会

「日本画家・横山操—その知られざる顔」  
10月10日(土) 14:00~(開場13:30) 会場: 映像ホール  
講師: 横山秀樹氏(前新潟市新津美術館館長、本展監修者)  
※申込不要・聴講無料  
※展示室入室の場合は要・企画展観覧券

内容等は都合により変更する場合があります。最新情報やイベントの詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

### ギャラリートーク

9月21日(月・祝)、10月24日(土)  
各日14:00~ 会場: 展示室1・2  
講師: 当館学芸員  
※申込不要・聴講無料  
※要・企画展観覧券

観覧料 一般 900(700)円 大学生 450(350)円 一般前売り 700円

※( )内は20人以上の団体料金 ※小・中学生・高校生及びこれらに準ずる方、各種手帳をお持ちの方は無料  
(一般前売り券) 販売所: 富山県水墨美術館、富山県美術館、アーツナビ(富山県民会館、富山県教育文化会館、富山県高岡文化ホール、新川文化ホール) 販売期限: 9月17日(木)

当館では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組みながら開館しております。ご来館の際は、マスク着用や手指の消毒など、感染防止の取り組みにご協力ください。また、展示室への入場制限をおこなう場合がありますのでご理解のほどお願いいたします。

常設展示 | 近代水墨画の系譜 下保昭作品室 ※観覧料: 企画展観覧料に含まれます  
館内施設 | 茶室「墨光庵」(立礼席、薄茶とお菓子) カフェ「北斗」 ミュージウムショップ「風花」 ※展示室外入場無料  
交通のご案内 | 【富山駅南口から】◎市内電車(大学前行)「富山トヨペット本社前(五福末広町)」下車、徒歩約10分 ◎ぐるっとBUS②乗場から北西周回ルート「水墨美術館」下車すぐ ◎地鉄バス◎乗場から小杉・高岡方面行「五福末広町」下車、徒歩約10分 / ◎乗場から四方・呉羽山老人センター・石坂・北代循環行「畑中」下車、徒歩約10分 ◎タクシー約10分 【富山空港から】タクシー約25分 【北陸自動車道】富山IC、富山西ICから自動車約20分 【無料駐車場】乗用車165台、バス7台

次回企画 | 墨は流すもの—丸木位里の宇宙— 11月13日(金)~12月27日(日)

富山県水墨美術館 〒930-0887 富山県富山市五福777 Tel: (076) 431-3719 Fax: (076) 431-3720  
www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm

